



「自分の知らない自分」を知る!

昨日13日(木)、5年2組で学級活動の提案授業が行われました。この授業には、「ジョハリの窓」という心理学の手法が用いられました。「ジョハリの窓」とは、自分と他人の認識のズレを理解する自己分析の手法です。自分のことは自分が一番知っていると思い込んでいる人も多いでしょう。しかし実際は自分のことゆえに見えない性格なども多いのです。

今回は、学級目標から下した具体的な姿から自分を見つめ、友達からも一週間ほど行動を観察・評価してもらい、その友達から見た自分と、自分から見た自分のずれから、行動目標(めあて)を設定しました。「毎日周りをよく見て、落ち込んでいる人がいたら、優しく『大丈夫?』や『どうしたの?』などの声を掛けて事情を知り励ます」「班の中で発表する人がいないときは、『自分からやる』と手を挙げて発表する」「ボランティアを週3~4回する※水曜必ず(10分~15分)」などのめあてがありました。一人一人が、めあてに向かって行動することで、学級目標に近付き、さらには学校目標の実現にも近付くと思います。5年2組の皆さんのこれからの行動に期待しています!



●ひこうきぐも✈ vol.10

アメリカでは、たくさんの友達ができましたが、その中でもテッド・奥村(日系3世)は、一緒にキャンプに行ったり、遊んだり、仲のよかった友達の中の一人でした。

テッドの友人宅でのホームパーティーに招かれたときのことで、たくさんのゲストの中に、日本人の私に来るということで、マグロの刺身を用意してくれていたのです。当時でも、アメリカでは、日本食ブームで、寿司や刺身は割とポピュラーになっていました。しかしわざわざ、私のために刺身を買って来てくれたと思い、感動していると、何と自分で釣って来たというではありませんか。船で沖に出て、ルアーで釣り上げたそうなのです。

しかし、久しぶりの刺身に喜んで食べたのはいいものの、いつもとちょっと味が違うのです。よく見ると、醤油ではなく、ソースなのでした。わさびなしソース味の刺身を前に、少し苦笑いをしてしまいました。

その主は、精力的な人で、遊びも仕事も大いに楽しむ実業家でした。パーティーの翌日も出張のため、家を空けなければならないという状況でした。5歳の息子に彼は「明日はママを頼むよ。」と言いました。息子は自信たっぷりに「分かったよ、パパ。」と返事をしたのです。さりげなく交わされたその会話に私は感動しました。日本ではややもすると、子供に「お母さんの言うことをちゃんと聞いて、いい子でいなさい。」と言ってしまうのではないのでしょうか。ごく自然な親子の会話の中に「自立心の芽」が育っているのを感じました。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。